

今週の為替相場見通し(2024年4月1日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		151.03 ~ 151.97	151.38	150.00 ~ 153.00
ユーロ	(ドル)		1.0769 ~ 1.0864	1.0790	1.0680 ~ 1.0950
(1ユーロ=)	(円)		162.97 ~ 164.42	163.40	162.20 ~ 164.40
英ポンド	(ドル)		1.2587 ~ 1.2668	1.2623	1.2400 ~ 1.2800
(1英ポンド=)	(円)	*	190.35 ~ 191.68	191.03	189.00 ~ 193.00
豪ドル	(ドル)		0.6486 ~ 0.6559	0.6516	0.6400 ~ 0.6580
(1豪ドル=)	(円)	*	98.17 ~ 99.25	98.59	97.00 ~ 99.80

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 為替営業第二チーム 松木 悠馬

(1)今週の予想レンジ: 150.00 ~ 153.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

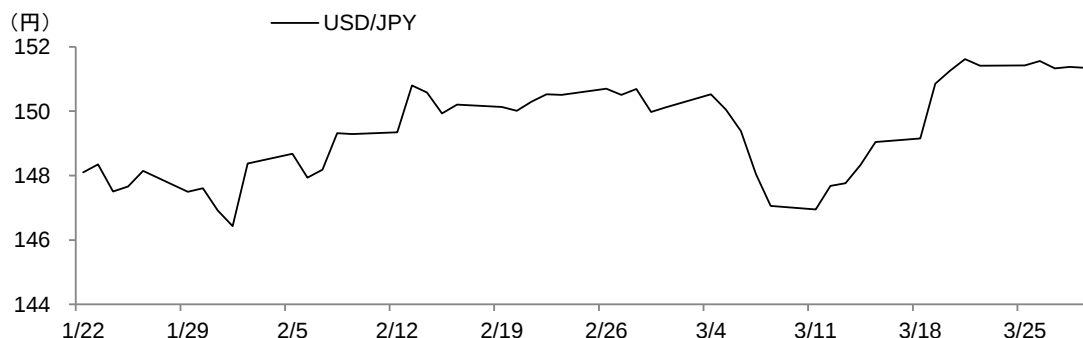
先週のドル/円相場は、年初来高値を更新も、政府・日銀による円買い介入への警戒感が燃る中、151円台で一進一退。週初25日、151.31円でオープンしたドル/円は、米金利上昇を受けたドル買いや神田財務官による円安けん制発言などが交差する中、151円台前半で方向感なく推移。海外時間は、米金利続伸を受け151円台半ばに上昇した。26日、ドル/円は本邦政府高官による円安けん制発言が続き、151円台前半でじり安。海外時間は、米2月耐久財受注の強い結果を受けた米金利上昇が好感され、151円台後半に反発した。27日、ドル/円は田村日銀審議委員の発言が予想よりタカ派ではなかったことで円売りが加速、34年ぶりの高値となる151.97円に急伸。海外時間は、財務省・金融庁・日銀が3者会合を開くとの報道で、一時151円付近に急落。その後、神田財務官の会見を受け、為替介入が差し迫っていないといった印象が広がる中、151円台前半に買い戻された。28日、ドル/円はウォーラーFRB理事のタカ派な発言を受けた米金利上昇を背景に、151円台前半から半ばでじり高。海外時間は複数の米経済指標を受けインフレ懸念が後退する中、米金利反落に合わせ151円台前半にじり安となったが、引けにかけては米金利反発を受けて151円台半ばに値を戻した。29日、ドル/円は米2月コア個人消費支出(PCE)デフレーターが前月比で低下していることが確認されたが、週末を前に値幅への影響は限定的となった。その後、結局151.38円で越週した。

今週のドル/円相場は、上値の重い展開を予想。日銀金融政策決定会合の内容は大方の予想通りの内容となったことに加えて、緩和的な金融環境が当面の間維持されることが強調されていた。賃金上昇圧力は以前に比べれば高まっているものの、中小企業を含めた幅広い層に恩恵が継続的に広がって行くには時間がかかる可能性が高い。そうした中、日銀が更なる利上げに向けて動きにくく、市場もその点を十分に織り込んでおり、円が買われる材料が出てくる可能性は低そうだ。一方、米国に目を向けると、ディスインフレは緩やかで、利下げ観測は後退しやすい環境にあり、ドルが買われやすい地合いになっている。もっとも、151円台後半以降では、本邦財務省による円買い介入に対する警戒感が徐々に強まる可能性が高いだけに、ドル高円安一辺倒の地合いにもなりにくく、結果149円台後半から151円台半ばを中心とした上値が重い推移になると見ている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/25~3/29)の値動き:

安値 151.03 円 高値 151.97 円 終値 151.38 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部 為替営業第二チーム 范 哲遠

(1) 今週の予想レンジ: 1.0680 ~ 1.0950 162.20 ~ 164.40 円

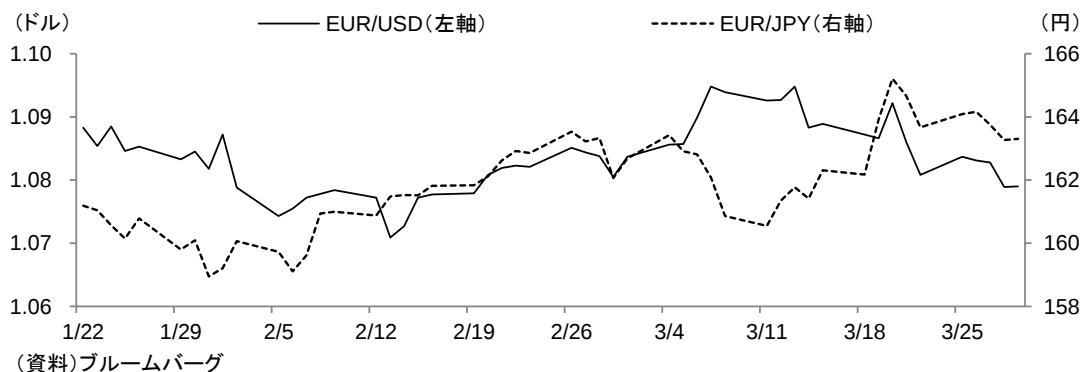
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは、ECB高官のハト派な発言や軟調な欧州経済指標が重しとなり、週後半に下落した。週初25日、1.0807でオープンしたユーロ/ドルは、独金利上昇や欧州株の堅調推移が下支えとなり、1.08台半ばに上昇した。26日、ユーロ/ドルは欧州株上昇が好感され一時週高値の1.0864まで続伸したが、NY時間には米金利上昇が重しとなり、1.08台前半に反落した。27日、ユーロ/ドルは独金利低下が重しとなり小幅に軟化する場面もあったが、終日を通して1.08台前半で小動きとなった。28日、ユーロ/ドルは独2月小売売上高の弱い結果やパネッタ伊中銀総裁のハト派な発言などが嫌気され一時1.07台後半に下落。その後は米金利動向に振らされる展開の中で、1.08を挟みレンジ推移した。29日、グッドフライデーにつき欧州は休場。

今週のユーロ/ドルは、新規材料に乏しく、もみ合いの展開を予想。1日(月)は欧州はイースターと祝日もあり、参加者が少ない中、閑散とした相場となりそう。ECBは直近において、複数の高官より緩和に向けた発言が続いており、市場では6月の緩和期待が高まっている。先週の27日にチボローネ・ECB理事は「2年間の高インフレに追いつくため賃金大幅に上昇しても、ECBは速やかに金利を引き下げることができるかもしれない。」とハト派な考えを示した。本稿執筆時点において、市場で取引されているオーバーナイト・インデックス・スワップ(OIS)は6月の利下げについて、8割強の確率と相応に織り込まれており、ユーロ/ドルが更に売られるには新規の材料が必要となるだろう。今週の主な経済指標は3日(水)ユーロ圏3月消費者物価指数(HICP、速報値)、4日(木)ECB政策理事会議事要旨(3月会合分)、ユーロ圏2月小売売上高の結果から利下げのタイミングを確認する展開となるが、市場の利下げビューをサポートする内容であれば、ユーロ/ドルは引き続き上値重く推移するだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/25~3/29)の値動き: (対ドル) 安値 1.0769 高値 1.0864 終値 1.0790
(対円) 安値 162.97 高値 164.42 終値 163.40



3. 英ポンド

欧州資金部 中島 将行

(1) 今週の予想レンジ: 1.2400 ~ 1.2800 189.00 ~ 193.00 円

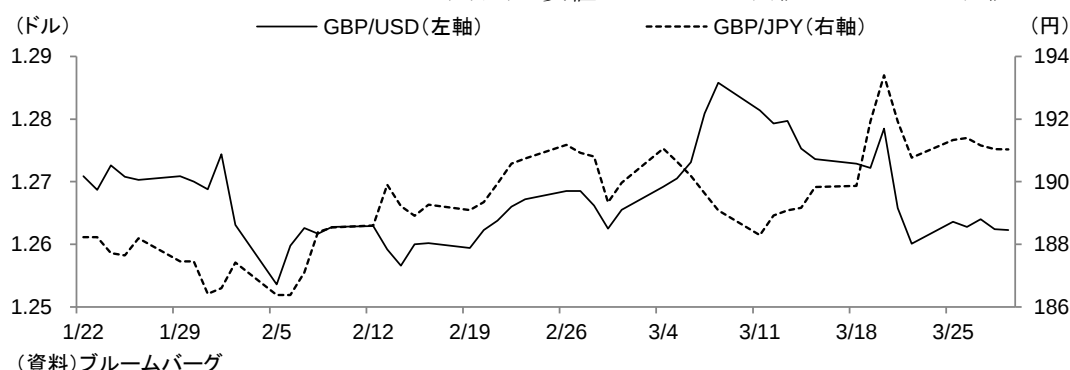
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は、3月28日時点で前週末と比較し対ドルで約+0.3%反発している。前週は、21日に開催されたBOEの金融政策決定会合において、タカ派と目されているマン委員とハスケル委員がこれまでの利上げ票を撤回し5.25%の政策金利の維持を支持するサプライズもあり、ポンドは対ドルで▲1.0%程度下落していた。先週は、当のマン氏、ハスケル氏両氏のインタビューがそれぞれあった。両氏とも利下げはまだ先、と市場に釘を指す発言を行っている。マン氏は26日にブルームバーグとのインタビューにおいて、利上げ票を撤回した理由について、英国の労働市場のダイナミクスが変化しているため、投票行動を変更したと説明した。生活水準の低下を補うために人々が追加雇用を求めている兆候が強まっているが、雇用主は採用に消極的だとの認識を示し、ホテルやレストラン、娯楽などのサービスに対する最長の支出も縮小していると指摘している。一方のハスケル氏は28日に公表されたFTのインタビュー記事の中で、利上げ票を取り下げた理由の一部はインフレの数字が予想以上に良好だったからと説明。だが、BOEが実施した企業調査では賃金の伸びが依然として高すぎ、緩やかにしか鈍化しないだろうと述べている。なお、英国は29日はグッド・フライデーで休日であり、本稿は28日までの為替の動きを対象としている。

今週の英ポンド相場は、5日(金)に米3月雇用統計を控え、データ次第の側面が強そう。より中期的な為替市場の流れは引き続き、FRB、ECB、BOEの利下げ開始時期とその後の利下げペースが焦点であり、現時点のデータからはドルがサポートされやすい。FRBを巡っては利下げの先延ばし観測が広がる一方、ECBやBOEといったその他の主要中銀は金融緩和に向けて前進しつつあるという見方が強まりつつあるためだ。SNBのサプライズ利下げ、スウェーデン・リクスバンクの5月か6月会合での利下げ示唆などもこうした流れに拍車をかけている。英国では5日(金)発表の英2月小売売上高が注目されるが、欧州通貨全般の流れを決定づけるのは上述の米3月雇用統計のほか、3日(水)に発表されるユーロ圏3月消費者物価指数(HICP、速報値)であろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/25~3/29)の値動き: (対ドル) 安値 1.2587 高値 1.2668 終値 1.2623
(対円) 安値 190.35 高値 191.68 終値 191.03



4. 豪ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 田川 順也

(1) 今週の予想レンジ: 0.6400 ~ 0.6580 97.00 ~ 99.80 円

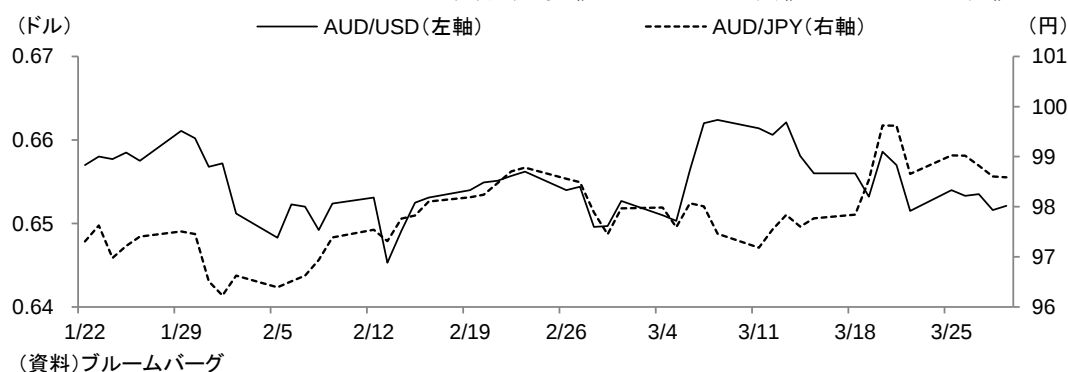
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、方向感の出ない展開となった。0.6516で週初取引をスタート。中国人民銀行が人民元の仲値を予想以上に元高方向へ誘導し、豪ドルにも追い風の展開。欧州時間に入るタイミングで一時的調整を挟んだが、北米時間では原油高を見ながら連れ高の展開。火曜では中国経済停滞懸念や隣国のRBNZの政策決定をこなしながら横ばいの展開。海外時間ではポジション調整的な買いに週間高値となる0.6559を示現。ただ、米株が急落すると豪ドルも下落調整。水曜日には豪2月消費者物価指数(CPI)が発表されたが、マーケットへの反応は薄。年度末にあたり横ばいの展開。木曜日のオセアニア時間では弱いNZ3月消費者信頼感指数や豪2月小売売上高を受けて軟調な展開。海外時間に入るとFRB高官から利下げに対してネガティブとも取れる発言が出ると、米ドルが急伸。豪ドルも売られる展開に週間安値となる0.6486まで下押しし、0.6516でクローズした。なお、29日金曜はグッドフライデーにつき豪休場。

今週の豪ドル相場は、上値の重い展開を予想。米2月耐久財受注(速報)や先述のFRB高官発言を受けて、米金利が上昇する展開。為替市場では全体的な米ドル高の地合いとなっている。併せて、こもと注目度が高いのが人民元。1月半ば以降、米ドル/人民元のドルの高値(=人民元の安値)の防衛ラインとして7.20が意識されてきたが、3月22日以降はこれを上回るドル高/元安が進行。中国当局は引き続き元安抑制を行うものの、その水準が変わり、以前よりも抑制スタンスを軟化させているというのが専らの見方となっており、元安から豪ドル安へ波及している。逆に豪ドル買いの材料としてはゴールド価格の上昇や、豪中銀の初回利下げのコンセンサスが8月であることからFRBよりも利下げ開始が遅い、という政策面でのコントラストがあるが前述のドル高・元安地合いの方が短期的には相場テーマとなりやすいと見る。今週は0.6400を目指す展開か。豪州の指標関連では、2日(火)にRBA議事要旨公表(3月会合分)、4日(木)に2月住宅許可件数、5日(金)に2月貿易収支などが予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/25~3/29)の値動き: (対ドル) 安値 0.6486 高値 0.6559 終値 0.6516
(対円) 安値 98.17 高値 99.25 終値 98.59



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。